

# 来年の参院選・県議選で党躍進へ 中国5県の共産党がいつせい宣言

出雲市では16日、大  
国陽介県議と後藤由美  
市議がスーパー前や出  
雲市駅前前で宣伝しまし  
た。(写真)



大国氏は今年3月に  
野党が共同で提出した

原発ゼロ基本法案を紹  
介し、「共闘の力が国政  
でも新たな政治の流れ  
をつくっている」と強調  
しました。

その上で、中国電力が  
新規稼働をねらう島根  
原発3号機について「県  
議団が取り組んでいる  
市民アンケートでは原  
発に反対の声が7割に  
も及んでいる」とし、「住  
民の声を背負って憲法  
9条を守り、原発ゼロの  
日本を実現します」と訴  
えました。

17日は松江市で尾  
村利成県議と市議団、大  
田市で大西修、亀谷優子

両市議、益田市で安達美  
津子市議、奥出雲町で川  
西明徳、田食道弘両町議  
らが平和憲法を破壊し、

## 県内公立学校にエアコン設置を 新婦人県本部が県へ要請

新日本婦人の会県本  
部(山崎泰子会長)は8  
日、県教育委員会の新田  
英夫教育長に対し、県内



公立学校のエアコン設  
置や2学期の猛暑対策  
など、県教委としてイニ  
シアチブを發揮するよ  
う要請しました。(写真)

山崎氏は「異常気象が  
続く緊急事態だ」と強調  
し、市町間でのエアコン  
設置の格差を改善す  
るよう求めました。ま  
た、猛暑日の部活動の短  
縮や中止、体育祭の延期  
など児童生徒の安全確  
保を最優先した対応を  
取るよう要請しました。

民営無視の政治を続け  
る安倍政権に市民と野  
党の共闘で怒りの審判  
を下そうと訴えました。

## 資本論の窓から④

### 使用価値と交換価値

商品は人間のなんら  
かの欲求を満たす性質  
をもっています。人間に  
とっての商品の有用性  
を使用価値と言います。  
人間が使用して有用な  
ものでなければ商品に  
はなりません。有用なも  
のでも、生産者自身が使  
ったり、家族や知人が売  
買することは商品ではあ  
りませんし、商品とは呼  
びません。  
生産者以外のの人にと  
って有用で、他の商品と  
交換される(売る)こと  
を目的として生産され  
るのが商品なのです。

### 商品のこの交換される 側面を交換価値と言いま す。交換は何とどのく らいの量で交換される かが問題になります。そ うなりますと、どんなも のでも交換出来て、そ れが量的に比較できる ものが交換のための共 通のモノサシでなけれ ばなりません。

商品のこの交換される  
側面を交換価値と言いま  
す。交換は何とどのく  
らいの量で交換される  
かが問題になります。そ  
うなりますと、どんなも  
のでも交換出来て、そ  
れが量的に比較できる  
ものが交換のための共  
通のモノサシでなけれ  
ばなりません。

### 共通のモノサシは「価値」 交換される異業種の 商品に共通なものは何 でしょうか。それらほど れも人間の様々な種類 の労働によって生産さ れています。この多種類 の人間労働一般から「労 働」を抽出して、それを

「抽象的人間の労働」と  
呼びます。この「抽象的  
人間の労働」がどの商品  
にも堆積されています。  
交換される物に共通な  
抽象的人間の労働の結  
晶としてこれらの物は  
「価値」になる。したが  
って、商品の交換価値の  
うちにみずからを現わ  
している共通物とは商  
品の価値なのです。  
価値の大きさについ  
てマルクスの言説を紹  
介します。

### ●どのようにしてその価値 の大きさははかられるの か? それに含まれている 「価値を形成する実体」、 すなわち労働の、分量に よつてである。労働の量そ のものは、その継続時間

よつてはかられ、労働時間  
はまた、時間、日などのよ  
うな一定の時間部分を度  
量基準として持っている。  
●個人的労働力のそれぞ  
れは、それが一つの社会的  
平均労働力という性格を  
もち、そのような社会的  
平均労働力として作用  
し、したがって、一商品の  
生産に必要な、または社  
会的に必要な、労働時間  
だけが必要とする限り、  
他の労働力と同じ人間の  
労働力である。社会的に  
必要な労働時間とは、現  
存の社会的標準的な生  
産諸条件と、労働の熟練  
および強度の社会的平均  
度とをもって、なんらかの  
使用価値を生産するのに  
必要な労働時間である。  
(不定期掲載)

## くらしと命を守る県政へ ⑩学力テスト(全国学力テストの中止を)

日本共産党県議団(尾村利成、大国陽介県議)の議会論戦を紹介しながら、県政をめぐる諸課題(医療・介護・福祉、原発、雇用・経済、教育、農業など)について連載していきます。今回は学力テストについて取り上げます。

### ●広がる点数競争の矛盾と弊害

全国学力テストは「子どもの学力の状況を調べる」「教育の改善に役立つ」などを理由に2007年から始まりましたが、教育委員会は「全国の平均点より上に」などと学校と教師を煽り、自治体独自の学力テストも広がっています。学校現場は子どもたちに過去問題や類似問題を繰り返しやらせるなどの学力テスト対策に迫られ、「本来やるべき授業ができない」などの深刻な問題が起きています。また、4月の全国学力テスト実施後に答案用紙が各学校でコピーされ、採点・集計・分析が行われています。教育現場からは「8月下旬に結果が返ってくるのに採点・分析する必要はない」などの批判が数多く上がっています。

### ●学校別結果の公表が学校を序列化

県内では2015年度実施分から教育委員会の判断で学校別結果の公表が可能となりました。19市町村のうち、松江市が学校別の平均点を公表し、出雲市が記述式で学校別結果を公表しています。松江市では「先生の教え方が悪いのでは」などと、学校別結果の公表が学校を序列化し、教育現場と子どもたちを過度な競争に駆り立て、弊害を招いています。

### ●学テ授業で直前対策「遺憾であり、行き過ぎた対応」—県議団の質問に教育長が答弁

県議団は2016年11月議会で、全国学力テストの直前(4月)に過去問題や類似問題等を使ったテスト対策が実施されている異常な状況(右表参照)を指摘。「授業時間を削った対策は本末転倒」とする文科省の指導に反する事態が横行していると告発しました。

嶋木朗教育長(当時)は「直前対策を行うことは調査結果そのものの信頼性を損ないかねない。あってはならない」と答弁。県議団は「学力テストの結果公表によってテストの平均点を上げることが至上命題となっている。不適切な事態を正すべき」と迫りました。

### ●日本共産党の政策

◆学力形成に有害な全国学力テストを廃止し、学力の全国的調査は以前のような抽出調査に戻します。◆確かな学力をすべての子どもに保障するため、少人数学級の推進や学校施設の充実、教員の多忙解消など教育環境の改善を求めます。

■2016年4月の全国学力テストに向け、過去問題(類似問題等を含む)を使った学校数

	小学校	中学校	2016年4月に行った			
			授業時間		家庭学習	
			小	中	小	中
松江市	20	7	7	1	5	0
安来市	6	2	6	2	0	0
出雲市	10	1	3	0	2	0
雲南市	5	0	0	0	0	0
奥出雲町	5	1	1	0	0	1
飯南町	2	0	2	0	0	0
浜田市	8	1	3	1	0	0
大田市	8	1	6	1	0	0
江津市	2	0	1	0	2	0
川本町	1	0	0	0	1	0
美郷町	1	0	0	0	1	0
邑南町	2	0	1	0	0	0
益田市	13	2	13	2	3	2
津和野町	2	1	2	1	1	0
吉賀町	4	1	4	0	0	0
海士町	1	0	0	0	0	0
西ノ島町	1	1	0	0	0	0
知夫村	0	0	0	0	0	0
隠岐の島町	2	0	0	0	0	0
計	93	18	49	8	15	3
小中合計	111		57		18	